

理科室より 東小の草花④

気温が上がり、春から一気に初夏めいてきました。この10～15年の間に、春という季節がグッと短くなったことを感じます。



学校の草花の様子も、大分変わってきていますので、今回はそのご紹介を。



ツクシ



ツクシのすがたが減り、スギナだらけに・・・

<ツクシ>

春を代表する植物の一つ。その本体の茎は地下にあり、胞子という、種と同じ役割をするものを放出するためにのびたものです。植物の名前として正しくは「スギナ」。ツクシの時期が終わると本体の茎からはこれだけが伸びるようになります。

杉に似ていて食べられる(ツクシや若い茎の部分)菜なので「杉の菜」。それとくつつく様に出てくるから「付く子」、と呼ぶようになったそうです。

以前にも書きましたが、おいしいからといって食べ過ぎるとよくない野草でもあります。



4 月中ごろ
つぼみ



5 月

サヤと
すけて見えるマメ

<カラスノエンドウ>

小さいけれど、サヤと中に豆(種)をつくる植物。東小では見られませんが、さらに小ぶりで白い花をつけるスズメノエンドウが、染谷坂を上ったところにある田畑の畦に見られました。

4 月中頃は、花がポツポツと見られる程度でしたが、日ごとに咲いている花が増え始め、今はサヤも見られます。

かき揚げにすると「おいしい！」のですが、両手で山盛り採っても、一人分になるかならないかというのが残念。



日照時間が増え、気温も上がり、タンポポのクキものびています。綿毛も増えていますが、この時期に綿毛を飛ばすことができるのはセイヨウタンポポ。日本のタンポポは虫に花粉を運んでもらわないと種を作ることができません。一方でセイヨウタンポポは自分だけでも種を作ることができる。そりゃあ数も増えるわけだ・・・